

# 中学校入門期に効果的に接続する 小学校高学年英語の試案

荒木 秀二

## 要 旨

文科省の調査では、すでに全国9割以上の公立小学校において、何らかの形で「英語活動」と呼ばれる指導が行われているが、その実態は実に多様である。こうした状況の中で、中央教育審議会の外国語専門部会は昨年3月、「小学校5年からの英語教育の必修化」を提言し間もなく始まる新学習指導要領においては、この方向で今後全国の小学校において「外国語活動」と呼ばれる（仮称）必修授業が展開されようとしている。本稿では、ここで改めて今後の小学校英語教育のより望ましいあり方、特に、子どもにとってより効果的な英語学習の継続性を確保するという観点から、小5～6年から中学校入門期にかけての指導の在り方について、新たな角度からの一試案を提供するものである。

## I 中学校外国語科の目標

### 1 学習指導要領改訂の流れ

1947(昭和22)年の学校教育法施行に始まるわが国の中学校学習指導要領（外国語）の流れの中で、特に、その目標の変遷を見ると、近年の改訂を通して、「コミュニケーション」なるキーワードを軸として、以下のように、それまでの流れの中にはなかった一つの変化が見られる。

昭和53年改訂

外国語を理解し、外国語で表現する基礎的な能力を養うとともに、言語や文化に対する関心を深め、外国の人々の生活やものの見方などについて基礎的な理解を得させる。

平成元年改訂

外国語を理解し、外国語で表現する基礎的な能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を深め、国際理解の基礎を培う。（下線は筆者）

- ・目標文の中に、「コミュニケーション」というカタカナ語がはじめて使われた。
- ・小中学校の全教科を通して、「関心・意欲・態度」の学力観（評価の観点）が重要視された。

平成10年改訂（現行）



## 2 内容として「言語・文化」の新設へ

これを受けた今後の改善の方向性のうち、中学校においては、学習指導要領の内容として「言語・文化」を新設し、自国や郷土について理解を深め、英語で積極的に発信したり異文化理解を進めたりするとともに、その活動の基礎力となる語彙や文構造の定着に向けた学習にも重点を置く。これにより、小学校段階での英語教育(音声中心)を素地として中学校においては、四技能に亘るコミュニケーションへの基礎力の向上を図るとともに、高等学校においては、中学校までの基礎・基本の定着を踏まえ、コンテンツ重視という考え方の中で、コンテンツに応じた言語や文化の学習を進めるべきであることが打ち出されている。

## 3 今後の指導への示唆

筆者はこの動きを、今後の中学校英語科指導のあり方への一つの有効な示唆として次のように受け止めている。即ち、前記「学習指導要領改訂の流れ」で示したように、ここ20年余に亘る中学校英語科教育は、週3時間という授業時間削減の悪環境とは裏腹に、「目標」という理念・理想においては、「コミュニケーション志向」(或いは偏重?)の英語教育が、まず英語学習における基礎・基本を身につけるべき中学生に対しても大きく課されてきたことの反作用ではないかと受け止めている。即ち、I-2に上げた「目標の四観点」のD「言語・文化に関する知識・理解」に関わる指導のうち、ことばの仕組み (language usage) たる「言語材料」の指導—文法そのものの指導ではなく、内容の伴う音声中心の指導の量、取り分け、日本語と英語の大きな違いである英語の「基本的な音声や文構造」に関わる指導が絶対的に不足してきた結果であることを指摘したい。その意味で、今回の専門部会による「言語・文化」の新設提案は、全国の学力調査の結果から正直に導き出された課題であるだけに、わが国におけるこれまでの中学校英語科の内容構成上の一つの欠陥を補うものとして大いに賛成である。学習指導要領「内容」の両輪として、「言語活動」とともに細部にわたって具体的に示されている「言語材料」についても、(昭和40年代の「学習活動」に立ち戻る意味ではなく)、より実践的な手法による指導やカリキュラムの開発が求められるのである。

# III 小中英語の接続を視野に入れた小学校「英語活動」見直しの視点

## 1 「英会話」の体験学習は英語のコミュニケーション能力育成に繋がるか

小学校の英語教育に熱心なある指導者が、ある小学校の高学年に“買い物ゲーム”の指導を行った後、それに参加した一児童から、「先生、日本の中で英語で買い物するわけでもないから、日本語でいいよ。」と言われたことがある、とある本で述懐していられた。たしかに、小学生が「道案内」の英会話表現を体験したからといって、実際に、道路で外国人に英語で道を尋ねられ、それに応答するような機会があるとは思えない。

現在行われている小学校の「英会話」は、国際理解の一環としての英語の体験学習である。その雰囲気や気持ちを味わわせながら「コミュニケーションへの関心や意欲」を育てようとする活動である。それ以上のことは求められていない。この限りにおいては、まだ不十分とはいえ ALT の導入や、子ど

もたちをよく知る担任教師の涙ぐましい努力によって、相当の成果を挙げていると言われる。とは言え、本来「英会話」とは「(英語の) 日常会話」である。その中には、ある特定の場面にしか用いない慣用表現や語句、短縮、簡略、省略等が多く含まれる。外国語の初学者にとっては云わば応用編である。まして、対象としているのは小学生である。ALTを通して、「生の英語」に触れさせれば、敏感な感覚で、それらを吸収していけるだろう。外国人にも物怖じせずに応答できるようになった、など、小学校「英語活動」の成果は大きい、との声が聞こえてくる。が、これらがこの先、どう「英語のコミュニケーション能力」の育成に繋がっていくのだろうか。確たる検証はなされてはいない。偶々、筆者の目に留まった最近の情報の中には、意外にも、次のような調査結果さえ報告されている。即ち、国立教育政策研究センターが、'05.11~12にかけて全国の国公立中学3年生から無作為抽出により行った調査によると、次のように、小学校の授業で英語を学習した経験がある生徒(80.7%)は経験していない生徒(14.0%)より、すべての調査Sectionにおいて低い正答率となったという結果である。

	[小学校で学習した]	[学習せず]
S1	81,0	84,0
S2	48,8	53,2
S3	65,5	74,3
S4	36,4	48,6 (正答率)

#### <調査問題>

- S1: 単語レベルでの発話ができるか、また、正しく発音できるか。  
 S2: 3語から8語までの英文を2回聞かせ、数秒後に復唱する問題。  
 S3: パソコンに表示された絵に関連する英文の質問を2回聞き、それに合った応答をする。  
 S4: 与えられたテーマについて、自分の考えなどを話す力を見る。

子どもたちの発達段階に即して、より適切な指導内容と指導方法を工夫し、基礎から継続的に無理なく積み上げていくことがあらゆる教育活動の基本ではないのか。

## 2 「英語のコミュニケーション能力」の本体は何か

小学校の「英語活動」を、単に「国際理解を深める」ためだけでなく、「英語のコミュニケーション能力」を育成することに繋げるものであるとするならば、英語活動で目指す「コミュニケーション能力」とは一体何か、についての共通理解が先ずなされなければならない。

鳥飼玖美子氏は最近の著書の中で、外国語学習における「コミュニケーション能力」の定義について、Canale & Swainの定義を用いて説明している。即ち、Communicative competence (コミュニケーション能力)として大きく 1. Grammatical competence 2. Sociolinguistic c. 3. Discourse c. 4. Strategic c.の4つの要素を挙げている。当然、1の「文法能力」がこれら4者の中核であり、最も基本となるものである。ただし、氏は、「文法といっても、音声、語彙から単語や文章の

組み立て方まで入る、いわば『ひとつのことばについての知識』です。」と述べている。

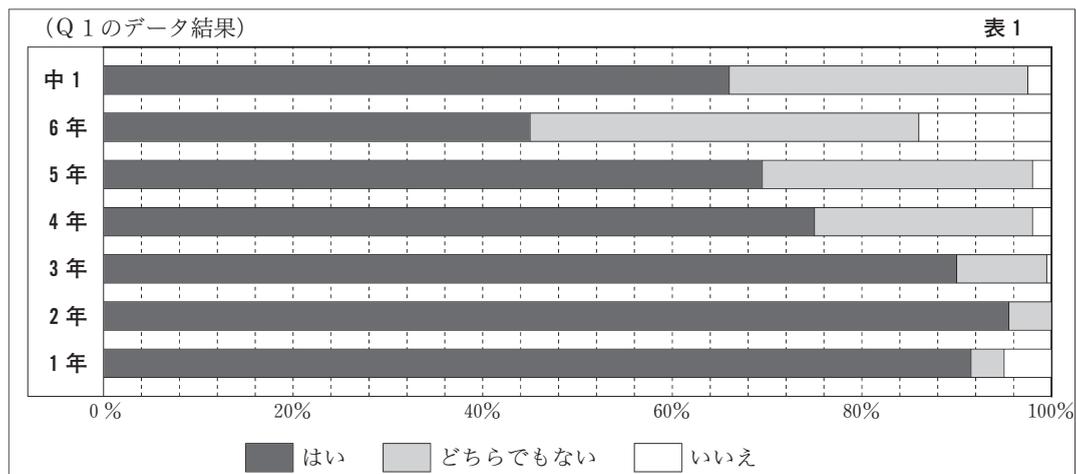
このことに似た別の意見として、金谷 憲氏も「英語の特性として、マクロストラクチャーといわれる「主語」+「動詞」の文構造は、英語の「音声」と共に第一の基礎・基本である。」という趣旨のことを述べている。しかし、この「文法」乃至は「文構造」と言うものを、十把一絡げにして、これまでの中高英語教育不振(?)の元凶のように扱ったり、「文法を入れたら、中学校入学前に英語ざらいを作るだけ。」などの一方的な決め付けによって、「小学校英語は中学校英語の前倒しではなく。」といった暗黙の原則のようなものを広め、これまでの小学校英語に関わる議論の場からこの「コミュニケーション能力」育成上の第一要素を欠いてきた嫌いはなかったか。内容の問題と指導法の良否の問題を混同したこの種の大雑把で曖昧な議論がまだ少なくない。

### 3 小5, 6年の児童は英語学習に何を求めているか

子どもの発達段階に応じた効果的なカリキュラム開発の必要性について、川崎市立宮前平小学校5, 6年と同中学校1年の連携研究(両校は同一敷地内に位置)が貴重な示唆を与えている。

即ち、小学校の全学年と中1の子どもたちを対象に、同一質問による「英語活動(学習)に関する意識調査」を実施したが、そのQ1:「英語活動(授業)は楽しいですか。」に対する回答は表1の通りとなり、次のような傾向が現れた。

Q1. 英語の活動(授業)は楽しいですか?  
→はい・どちらでもない・いいえ



傾向: 小学校の学年が進むにつれて「はい」が減っていき、小6では44% (最低)になる。ところが、中1になると「はい」が66%に増加した。

そこで、小6と中1との授業内容の差はどこにあるのかについて検討した結果、  
共通点: できるだけ英語を使い、子どもたちにも英語を使う場面を与えながら指導している。  
相違点: 中1では、①文字の使用 ②ある程度文構造を理解させてから、自分の言いたいことを表

現させている。

この「ある程度思考活動の伴う学習」から「できた。」「分かった。」という達成感が生まれる。

この傾向は、Q2：「どんなことが楽しいと思いますか。」の回答（自由記述）として、

小5，6：「英語が分からなくても楽しい。」「ゲームそのものが楽しい。」

中1：「伝ようとするのが相手に伝わった時が楽しい。」「楽しく学んだ上で英語を覚えることができる。」

などの児童生徒のコメントからも同様に読み取ることができる。

上記の実践研究は、ある小・中学校の一事例であるとは言え、小学校高学年～中1という小一中英語の接続点における児童の実態として、

小5，6の英語活動において児童は、発音や文構造など英語学習に対する知的好奇心を満たす程度の思考過程を伴う内容を求めている。

ものと受け止めることができる。

換言すれば、子どもの発達段階（学年）によって、英語学習に対する「楽しさ」の質も変わってくることを再認識しておく必要がある。

## IV 発達段階に即した小～中9年間の英語カリキュラムを

### 1 小5～6向け中英への「ブリッジ学習」を導入する

小学校低～中学年で現在広く行われているいわゆる「英語活動」の利点を大いに生かしながら、中学校入門期への接続点にあたる小5～6年の中に、それまでの「英語活動」のおさらいと中学校英語への「橋渡し」学習を導入し、英語の基礎的な発音や文構造に慣れる活動を組み込みたい。この指導法の効果的な導入により、現在、とくに高学年の指導において、一種閉塞状態に陥っていると思われる小学校「英語活動」を、中学校入門期の指導に円滑に接続する上で、次のような幾つかのメリットが期待できる。（表2参照）

- ① 英語の基礎的な音声と文構造を系統的・実践的に学ばせる教材、指導法として Harold E. Palmer の『English Through Actions』を土台として編成された『The First Six Weeks of English』の教材を生かした効果的な指導を工夫する。
- ② 小英～中英の英語教育を一貫的に捉え、小5～6から、児童の興味・関心に配慮しながらこの指導法を導入することにより、現行の中学校英語の言語活動から、入門期以降の「聞くこと・話すこと」の一部の活動を減じることが可能で、その分を「読むこと」及び「書くこと」の言語活動の指導に充て、従来から不足がちであった「まとまりのある文章を読むことや、書くこと」等、この領域の学習の拡大・充実をめざすことができる。
- ③ 地域、学校の事情により、小学校5～6年の時期にこの指導法の導入が不可能な場合は、中学校新学習指導要領に導入される可能性の高い「言語・文化」の授業枠を利用して、中学校1年の入

表 2

小中高接続英語教育をめざす 各学年の目標・内容・活動の概要(全体概観)

学年	目標	到達目標	教科書	教材	活動	評価	学習の項目
1	英語の楽しさや有用性を体験し、英語を学ぶ意欲を高める。	1. Hello! My name is... 2. I am... 3. This is my... 4. How are you? 5. What is your name?	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。
2	英語の楽しさや有用性を体験し、英語を学ぶ意欲を高める。	1. I like... 2. I don't like... 3. What do you like to do? 4. How often do you...?	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。
3	英語の楽しさや有用性を体験し、英語を学ぶ意欲を高める。	1. I can... 2. I can't... 3. How many... are there? 4. How much... is it?	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。
4	英語の楽しさや有用性を体験し、英語を学ぶ意欲を高める。	1. I am going to... 2. I will... 3. I am interested in... 4. I am good at...	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。
5	英語の楽しさや有用性を体験し、英語を学ぶ意欲を高める。	1. I have... 2. I don't have... 3. How old are you? 4. How tall are you?	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。
6	英語の楽しさや有用性を体験し、英語を学ぶ意欲を高める。	1. I am... 2. I am not... 3. I am... 4. I am... 5. I am... 6. I am... 7. I am... 8. I am... 9. I am... 10. I am...	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。	英語の基礎知識を身につけ、簡単な英語でコミュニケーションを図る。

\* Communicate and Competence (Council of Europe, 1998) 参照

門期にこの指導法を活用することも可能である。

## 2 指導者についての特別な配慮を要する

なお、この計画には、指導者についての配慮が不可欠である。その確保のためには、小学校英語の専科教員や、この面からの実技研修を経た担任教諭等を充てるほか、地域の小中（高）連携による中（高）英語教員の出張指導なども工夫されることが望ましい。この際には、中高教員の時間措置や、平成14年の免許法改正による小中（高）教員の学校種間異動を円滑にするなど、行政サイドの強力なバックアップが欠かせない。

## V 「日常会話」から「定型会話」(Conventional Conversation)へ

### 1 「定型会話」の特徴

Oral Method で知られる Harold E. Palmer は『English Through Actions』を通して、英語の基礎的な発音および文構造を体系的に且つ実践的に無理なく身に付けさせる文型練習の方法を提唱している。「定型会話」とは、いわゆる「日常会話」とは全く異なるもので、基礎的な文型を英問英答 (question-answering) の形式で練習し習熟させていくことをめざす教材と指導法である。Palmer はこの教材の利点及び活用法について次の点を挙げている。

- (1) 定型会話で扱われる対話(dialog)は、ある一定のきまり(convention)に従って行われるもので、基礎的な言語習慣(speech habit)の形成を助長促進することを目的とする。
- (2) 日常会話は教室で教えることがむずかしく、しかも成功することが少ないのに対し、定型会話は教室向きであり、成功率が極めて高い。
- (3) 教師の問いに対する生徒の答えは、質問を正確に聞いたかどうかを示すため、常に質問の文型と同じ形で答える。たとえば、How many books are there on the table?の答えは、There are twelve books on it. あるいは There are twelve on it. であって Twelve.や I see twelve books on it.などの答えは認めない。
- (4) 生徒が教師の英問に答える際、質問の文にある名詞を適当な代名詞に変え、質問文の名詞をすべてそのまま復唱する必要はない。たとえば、Where is the book? に対する答えは、It's on the desk. であって The book's on the desk. とする必要はない。
- (5) 既習の語、文法事項などを使うときは、生徒の知識、経験の範囲を超えないものとする。

### 2 基本文型の練習—The First Six Weeks of English(H.E.Palmer)の効果的な活用

言語習得の自然法則に拠って周到に組織された（中学校）開本前指導『The First Six Weeks of English』の効果的な活用を薦めたい。一般的に週5時間の授業時数の下で行われていた戦前の英語教育界に導入された Palmer の Oral Method による指導法である。

現在一般的になっている communicative な指導では、入門期であっても、例えば、袋に何か物を入れて教師が What's this? と聞くと、応答の文は (It's) A box. のように It's の部分が省略されるこ



CC式文型会話の指導細案

Lesson		表 4	
Sentence Type/Key Word	指導	教師の振舞	児童の動き 指導上の留意点
<p>例: a book, a box, a pen, a pencil, a notebook</p>	<p>・新語 がわかる</p>	<p>・物を手に持って Look! Listen carefully. a book, a box, a pencil, a pen, a notebook</p>	<p>・以下すべてを音読し録り(×2) ・指示は日本語でも行っては可 ・教師の動作を見せながら物を置く ・New Words は、必ず指し示されたもの のみを唱える(以後の指導計画 にのみ行う) ・グループ内で、順に発表する。 指導者のサポート</p>
	<p>いそわる</p>	<p>・物を取り上げながら This is your hand. Let's say to your friends/group.</p>	
	<p>二やってみよう ①平綴文 がわかる</p>	<p>・物をもち上げながら Listen carefully. This is a book. This is a box. This is a pencil. This is a pen. This is a notebook.</p>	<p>・片手に物を持ち、片手で指し示しな ら(ジェスチャーをおおひきき) (×2)</p>
	<p>いそわる</p>	<p>・Say after me: all together.</p>	
	<p>二やってみよう ②Yes-No 疑問文</p>	<p>・本を渡りながら Look! 指導してあげ</p>	<p>・グループ内で、順に指し示しながら 発表する。 "Yes/No"→"I"→"It"</p>
	<p>二やってみよう Q Yes</p>	<p>Is this a book? 入声くっきり Yes, it is. Is this a box? Yes, it is. Is this a pencil? Yes, it is. Is this a pen? Yes, it is. Is this a notebook? Yes, it is.</p>	
	<p>Q No</p>	<p>Is this a book? 音を揃はなくて No, it isn't. Is this a box? No, it isn't. Is this a pencil? No, it isn't. Is this a pen? No, it isn't. Is this a notebook? No, it isn't.</p>	
	<p>いそわる</p>	<p>・Say after me everyone.</p>	
	<p>Q Yes</p>	<p>Q -Yes, / -No.</p>	
	<p>Q No</p>	<p>Then answer me (by question). I Q -Yes, / -No. P -No.</p>	
	<p>二やってみよう</p>	<p>Let's ask a your friend. I Q -Yes, / -No. P Q</p>	<p>・グループ内に活動する。 ・何か一つの物を取り上げて、となり "I"→"Q"→"I"→"Q"→"I"→"Q"→"P"</p>
	<p>③or- 疑問文 がわかる</p>	<p>・エンピツを示して Look and Listen carefully! Is this a pen or a pencil? It's a pencil. Is this a box or a pen? It's a box. Is this a book or a notebook? It's a book. Is this a pen or a pencil? It's a pen. Is this a book or a box? It's a box.</p>	
	<p>いそわる の両方</p>	<p>・Say after me: all together. Then I was answer me.</p>	
	<p>Q Yes</p>	<p>T: Q Is this a box or a pen? F: A It's a box.</p>	
	<p>Q No</p>	<p>Now, let's practice in your group. I Q F: A Is this a box or a pen? It's a box.</p>	<p>・グループ内に活動する。</p>
	<p>④物 名 がわかる</p>	<p>・物を取り上げながら New Words! What's this? It's a book. What's this? It's a box. What's this? It's a pen. What's this? It's a pencil. What's this? It's a notebook.</p>	
	<p>いそわる の両方</p>	<p>・Say after me. Answer me. I: Q - F: A Let's practice. F 1: Q - F 2: A</p>	<p>・何か一つの物を取り上げて、となりの 友達に聞く "I"→"Q"→"I"→"Q"→"I"→"Q"→"P"</p>

Lessonごとに  
この中の英語が  
がわかる。

例の物名  
①-④の初期は、児童  
が十分理解し、さらに  
発表の機会を求めるとき  
・小学校卒業前程度、こ  
れまで十分理解した  
ら名前  
・英語、英語、絵か、下ながを  
見ながら指し示してあげよう。  
例: the, cat, rabbit,  
lion, monkey...  
banana, apple, peach  
X on apple, orange  
orange 色も物もわかる

とが多い。(教師はそれで可とする。)生徒たちは、教室での新出文の練習がこのようであるから、その後の言語活動においても、英文の構成としては最も基本となる「S+V」の部分省略を言う習慣が身についてしまう。こうした生徒は、大学生になっても、例えば、教師が What time did you get up this morning? と投げかけてみても、答えはほとんど Seven. とか Eight. であり、せめて At seven. か ましてや I got up at seven. などが返ってくることはほとんど望めないのが普通である。(コミュニカティブに指導しているから、ではなく練習が足りないから「S+V」が出てこない。)こうした生徒や学生に、「昨日の出来事」などのテーマでまとまりのある文章を書く(話す)課題を与えても、ある程度でも正しい英文を求めることは容易ではないのである。

一方、Palmer の Conventional Conversation 方式に基づく本教材の指導では、先述したように、教師の質問を正確に聞いたかどうかを示すために、応答文も質問の文型に基づいて「主語+動詞」から言う。こうした一定の約束：ことばの使い方の基本的なルールに従って、ごく短い基本文を、物や動作(actions)で示しながら興味深く展開することができる。「答えの文では質問文にある名詞は、it などの代名詞にする(約束)。」など最小限のルール説明以外は文法の説明などは全くしない。

以下、詳細については、指導例として表 3、表 4 に示すとおりである。

#### 参考文献

- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2007. 「特定の課題に関する調査」『内外教育』5月(第5735)号 pp. 2-3
- 金谷 憲 2000. 「基礎・基本を身に付ける外国語」『中等教育資料』12月号 pp.22-27
- 川崎市立宮前平小・中学校. 2006. 『小中連携英語教育カリキュラムの開発』川崎市教育委員会
- 鳥飼玖美子. 2006. 『危うし! 小学校英語教育』文春新書
- 小川芳夫. 1966. 『英語教授法辞典』三省堂
- Harold & Dorothee Palmer. 1993. 『English Through Actions』開拓社(第10版)
- Harold E. Palmer. 1929 『THE FIRST SIX WEEKS OF ENGLISH』The Institute for Research in English Teaching



表 2

小中一貫した英語教育をめざす 各学年の目標・内容・活動力等の全体計画

基礎的なコミュニケーション能力			言語や文化に対する知識・理解			話題・場面			
小	学	年	Listening [聞くこと]	Speaking [話すこと]	Reading [読むこと]	Writing [書くこと]	言語や文化に対する知識・理解 言語材料	話題・場面 (活動例)	
1	2	3	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> </ul>	<p>Listening [聞くこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単語の意味や発音、リズムなどに興味・関心を持ち、聴く。</li> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> </ul>	<p>Speaking [話すこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> </ul>	<p>Reading [読むこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> </ul>	<p>Writing [書くこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物、体の部分、数、大小、くま、もの、動物、乗り物</li> <li>人々、職業、年齢、性別、全席、目録、噂、好きな食べ物、家族、職業</li> <li>学校生活、趣味、教科、計画、教員、日常生活、行事、方角、建物、地図、商店、買い物、電話</li> </ul>	
4	5	6	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語の活動などに興味を持ち、進んで取り組む。</li> <li>自国、外国の文化や人々の生活に関心を持ち、進んでコミュニケーションを図る。</li> </ul>	<p>Listening [聞くこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> </ul>	<p>Speaking [話すこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> </ul>	<p>Reading [読むこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> </ul>	<p>Writing [書くこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> <li>簡単な英語のうたや歌、ダンス、ゲームなどで楽しむ。</li> </ul>	<p>言語や文化に対する知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「総合的な学習」の英語学習に関連した生活、文化</li> <li>英語・場面ごとの活動にかかわる動詞、形容詞、名詞、文など</li> <li>「The First Six Weeks of English」の話題</li> <li>『English Through Actions (Palmer)』の話題</li> <li>Conventional Conversation の基本知識を習得し、実践的に行事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活、趣味、教科、計画、教員、日常生活、行事、方角、建物、地図、商店、買い物、電話</li> </ul>
中	学	年	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語の活動を通じて、英語の理解を深め、積極的に活用し、それらに慣れる。(小中ブリッジ学習)</li> </ul>	<p>Speaking [話すこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な音声の特徴</li> <li>(1) 考えや気持ち伝える</li> <li>(2) 聞き取り</li> <li>(3) 聞き返す</li> <li>(4) 聞き返す</li> </ul>	<p>Listening [聞くこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な音声の特徴</li> <li>(1) 自然な口調、大切な部分を聞き取る</li> <li>(2) 聞いて適切に応じる</li> <li>(3) 聞き返す</li> </ul>	<p>Reading [読むこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な音声の特徴</li> <li>(1) 文章、符号等を識別し、内容を理解する</li> <li>(2) 文章、符号等を識別し、内容を理解する</li> </ul>	<p>Writing [書くこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な音声の特徴</li> <li>(1) 文章、符号等を識別し、内容を理解する</li> <li>(2) 文章、符号等を識別し、内容を理解する</li> </ul>	<p>言語や文化に対する知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「The First Six Weeks of English」の話題</li> <li>Conventional Conversation の基本知識を習得し、実践的に行事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活、趣味、教科、計画、教員、日常生活、行事、方角、建物、地図、商店、買い物、電話</li> </ul>
1	2	3	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語の活動を通じて、英語の理解を深め、積極的に活用し、それらに慣れる。(小中ブリッジ学習)</li> </ul>	<p>Speaking [話すこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な音声の特徴</li> <li>(1) 考えや気持ち伝える</li> <li>(2) 聞き取り</li> <li>(3) 聞き返す</li> <li>(4) 聞き返す</li> </ul>	<p>Listening [聞くこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な音声の特徴</li> <li>(1) 自然な口調、大切な部分を聞き取る</li> <li>(2) 聞いて適切に応じる</li> <li>(3) 聞き返す</li> </ul>	<p>Reading [読むこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な音声の特徴</li> <li>(1) 文章、符号等を識別し、内容を理解する</li> <li>(2) 文章、符号等を識別し、内容を理解する</li> </ul>	<p>Writing [書くこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な音声の特徴</li> <li>(1) 文章、符号等を識別し、内容を理解する</li> <li>(2) 文章、符号等を識別し、内容を理解する</li> </ul>	<p>言語や文化に対する知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「The First Six Weeks of English」の話題</li> <li>Conventional Conversation の基本知識を習得し、実践的に行事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活、趣味、教科、計画、教員、日常生活、行事、方角、建物、地図、商店、買い物、電話</li> </ul>
中	学	年	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語の活動を通じて、英語の理解を深め、積極的に活用し、それらに慣れる。(小中ブリッジ学習)</li> </ul>	<p>Speaking [話すこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な音声の特徴</li> <li>(1) 考えや気持ち伝える</li> <li>(2) 聞き取り</li> <li>(3) 聞き返す</li> <li>(4) 聞き返す</li> </ul>	<p>Listening [聞くこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な音声の特徴</li> <li>(1) 自然な口調、大切な部分を聞き取る</li> <li>(2) 聞いて適切に応じる</li> <li>(3) 聞き返す</li> </ul>	<p>Reading [読むこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な音声の特徴</li> <li>(1) 文章、符号等を識別し、内容を理解する</li> <li>(2) 文章、符号等を識別し、内容を理解する</li> </ul>	<p>Writing [書くこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な音声の特徴</li> <li>(1) 文章、符号等を識別し、内容を理解する</li> <li>(2) 文章、符号等を識別し、内容を理解する</li> </ul>	<p>言語や文化に対する知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「The First Six Weeks of English」の話題</li> <li>Conventional Conversation の基本知識を習得し、実践的に行事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活、趣味、教科、計画、教員、日常生活、行事、方角、建物、地図、商店、買い物、電話</li> </ul>

\* Communicative Competence (Canale & Swain)

(2) sociolinguistic c. : 社会言語学的能力

(3) discourse c. : 談話的能力

(4) strategic c. : 方略的能力

(1) grammatical c. : 文法的能力

＜児童への説明＞ 「英語の文型会話」：英語の基礎力をつけける活動例

◎ 活動のねらいと方法 ◎

- ねらい：
  - これまで、英語の単語はたくさん聞いたり、発音したりしてきましたが、「英語の文」については、あまり練習していません。
  - 普通、英語の文は、単語を「文」で覚えていきます。英語を「文」で覚えていくことを相手に正しく伝えることができます。
  - そこで、今日から、少しずつ「英語の文の型（文型）」に慣れる活動を始めましょう。
- 方法：活動ア～ウ：教師のモデルと練習（指示に従って）
  - 日本語はあまり使わずに、身近な品物などを指したり、動作で示しながら、直接「英語の文」を聞かせます。
  - 日本の進め方（小グループ）に従って練習します。
  - 先生の「文型」を、後に出る別の「文型」の基礎になっていますから、正しい順に従って練習を進めます。
  - ②～④ 答えて見よう。（などの指示に従って練習して下さい。）

活動工：ペアやグループで会話の練習

- ・ 活動アの後、または前時の復習の時に行う。
- ・ (4人グループP1～P4の例) P1:Q (問) →P2:A (答) →P2:Q→P3:A →P3:Q→P4:A →P4:Q→P1:A

表 3

小中英語の接続 Conventional Conversation (定型会話)方式による 基本文型の練習：The First Six Weeks of English (H.E.Palmer)の進め方

提示順	1	2	3
Lesson	教師の指示：活動(ア) T⇒T: Look at me. Listen carefully. (イ) T⇒P: Repeat/Say after me. (ウ) T⇒P: answer my question. (エ) P⇒P: Let's practice.		
No. Sentence Type	1 This is a book. (S + be + 名)	2 I'm ~ ing (S + be ~ ing)	3 That is a door. (S+be+名)
Statement <平叙文>	This is a book. a notebook. a pen. a pencil. a box.	I'm standing up. sitting down. looking at you. looking at a chair. looking at a cap.	That's the door. the window. the wall. the corner. the ceiling.
Yes/No-Question	Is this a book? Yes, it is. No, it isn't.	Am I looking at a chair? Yes, I am. No, I'm not.	Is that the door? Yes, it is. No, it isn't.
~or~- Question	Is this a book or a notebook? It's a book.	Am I looking at a chair or a cap? I'm looking at a cap.	Is that the door or the wall? It's the door.
Wh- Question	What is it, then? What's this?	What am I looking at? I'm looking at a cap.	What's that? It's the window.
☆	S, Tの追加 ☆その他の語句・表現		What colour is it, then? It's white. Which book's black? This book (one) is.
関連語句等	* book, box, pen, pencil, match, & dog, cat, rabbit, lion, monkey, .. banana, lemon, strawberry, melon (an apple, an orange)	* chair, desk, table, bag, cap I, you, me	* school room, floor, blackboard, platform, picture, chalk,

注：Sentence Type のNo.1,2,3...は本指導計画のための「基本文通番号」とする。原則として、1指導時間につき1 Sentence Typeのみ取り上げる。・活動工 は児童の状況を見て、無理なく実施する。

CC式文型会話の指導細案

Lesson 1

表 4

Sentence Type/New Word	活動	教師の指導	児童の動き 指導上の留意点
NW: a book, a pen, a box a pencil a notebook	・新語 ア聞く	・物品を手にとって Look! Listen carefully. a book, a box, a pencil, a pen, a notebook	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下すべて2度繰り返す(×2)。</li> <li>指示は日英両用で行ってよい。</li> <li>教師の動作を見乍ら、英語を聞く</li> <li>New Words は、先ず指示されたものを必ず用いる(以後の指導計画につながる)</li> <li>グループ内で、順に発表する。指導員のサポート</li> </ul>
	いまねる	・ Say after me.	
	エやってみよう	・物を取り上げながら This is your turn! Let's say to your friends/group.	<ul style="list-style-type: none"> <li>片手に物を持ち、片手で指差し乍ら(ジェスチャーをおおげさに)(×2)</li> </ul>
	①平叙文 ア聞く	・物品をもち上げながら Listen carefully. This is a book. This is a box. This is a pencil. This is a pen. This is a notebook.	
	いまねる	・ Say after me altogether.	
	エやってみよう	・ Let's say to your friends.	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で、順に皆に示しながら発表する。 P1→P2→P3→P4.....P6</li> <li>答えがYesになる物を示して</li> </ul>
	②Yes-No 疑問文 ア聞く Q-Yes	・本を取り上げて Look! 指差し乍ら Is this a book? 大きく頷いて Yes, it is. Is this a box? Yes, it is. Is this a pencil? Yes, it is. Is this a pen? Yes, it is. Is this a notebook? Yes, it is.	
ST 1: This is a book.		・ノートを取り上げて 指差し乍ら Is this a book?首を横にふって No, it isn't. Is this a box? No, it isn't. Is this a pencil? No, it isn't. Is this a pen? No, it isn't. Is this a notebook? 頷いて Yes, it is.	<ul style="list-style-type: none"> <li>答えが No になる物を示して</li> </ul>
↓ Lessonごとに この中の英語が 新しくなる。⇒	いまねる	・ Say after me everyone. Q -Yes, / -No,	
	ウ 問答 Q-A	・ Then answer me(my question). T Q -Yes, / -No, P -Yes, / -No,	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ毎に活動する。</li> <li>何か一つ物を取り上げて、となり P1→P2→P3→P4.....P6→P1</li> </ul>
	エやってみよう	・ Let's ask to your friend. P 1 Q -Yes, / -No, P 2	
	③or~ 疑問文 ア聞く	・エンピツを示して Look and listen carefully! Is this a pen or a pencil? It's a pencil. Is this a box or a pen? It's a box. Is this a book or a notebook? It's a book. Is this a pen or a pencil? It's a pen. Is this a book or a box? It's a box.	
	いまねる ウ問答 Q-A	・ Say after me,altogether. ・ Then please answer me. T : Q P : A Is this a box or a pen? It's a box.	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ毎に活動する。</li> </ul>
	エやってみよう	・ Now, let's practice in your group. P 1 : Q p 2 : A Is this a box or a pen? It's a box.	
NWの補充 ①~④の活動を、児童が十分理解し、さらに発表の機会を求める場合 ・小学校英語活動で、これまで十分慣れ親しんだ名詞 ・実物、写真、絵カードなどを用いて補充活動してもよい。 例: dog,cat,rabbit, lion,monkey.... banana,melon,peach X an apple,an orange grapes など未習の表現はさける	④Wh- 疑問文 ア聞く	・本を取り上げて Now listen! What's this? It's a book. What's this? It's a box. What's this? It's a pen. What's this? It's a pencil. What's this? It's a notebook.	<ul style="list-style-type: none"> <li>何か一つ物を取り上げて、となりの友達に聞く P1→P2→P3→P4.....P6→P1</li> </ul>
	いまねる ウ問答 エやってみよう	・ Say after me. ・ Answer me. T : Q - P : A ・ Let's practice. P 1 : Q - P 2 : A	